

はれやか

第18号

令和元年5月発行

ケアハウスあかいわ中庭

岩藤医療保健福祉グループ

岩藤医療保健福祉グループ

医療法人 知誠会

社会福祉法人 赤磐中央福祉会

理事長 岩藤 知義



今年5月、元号も新たに令和となりました。短期間に二度の正月が来たようで、厳かに心改まる思いです。当院も2月1日で開院30周年を迎えました。2月17日、ホテルグランヴィア岡山にて医療業界、政財界の方々、職員ら約250人を招き、祝賀会を催しました。オペラ歌手とピアノ、トランペットの演奏で祝賀ムードを盛り上げて頂きました。開業期間は平成の時代とちょうど重なり、この間は良い地固めになった印象です。当院の医療内容と存在感が地元十分に浸透されてきたか検証しつつ、今後は、地域の医療充足度を更々上げてゆく覚悟です。

さて、世界に目を向けると、世紀の大発見ブラックホールの撮影に始まり、民間ロケットやはやぶさの活躍など、今年は宇宙産業が益々盛んになりそうです。自動運転やドローンで道路や空までが塞がり新たな公害が発生しそうですが、宇宙開発が進んで地球外に逃れて移住する日が来るのでしょうか？

A1の進歩は医療の分野にも取り入れられ、がんの早期発見に目覚ましく役立って来るでしょう。高齢化に伴いがんの発生頻度はさらに上がって、現在は2人に1人はがんになると言われています。

抗がん剤の開発が進み、遺伝子治療薬などが登場しています。しかし、薬剤費は超高額となるばかりです。効果に応じた成功報酬型になっても公的医療保険では対応困難です。保険会社の出番になるのでしょうか。

とは言え、5Gの利用が進み、人がA1に監視されるという住みにくい環境になるのかもしれないと複雑な心境です。

医療介護の在り方として若い時は病気を治療して治す。高齢者は治し支える医療が大切だと私は考えています。医療に対する姿勢としては、治療は無理せず出来ることから始め、患者主体の治療をサポートします。そのためには、情報提供を十分行いあくまで自己決定による治療を目指します。

医療介護福祉の発展で、平均余命は延びてきました。喜ばしくない合併症の問題があります。フレイル（老化による虚弱）は、65歳になると1割の人が該当しています。最後まで歩いて生活出来るよう、リハビリ機能をあげることが大切です。

今年7月から、私は岡山口タリークラブの副会長として、清水信義会長のもとで健康維持推進の活動に努めます。特に東京オリンピックを目前として、国の禁煙対策は遅れており、副流煙による健康被害の啓蒙が重要だと考えています。

前回の「はれやか」でお知らせした、砂川の堤防工事も急ピッチで進み5月の末には決壊部分は修復されるようです。しかし、未着手の部分もあり、無事に梅雨明けになるのを祈るばかりです。